

2019年10月13日

福音書からのメッセージ

声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った。（ルカによる福音書17章13節）

イエス様は弟子たちと歩いていました。彼らを通ったのは、サマリアとガリラヤの間にある村です。ガリラヤのあるユダヤと、サマリアとは敵対していました。そのため国境であるこの村は、危険ととなり合わせでした。その国境の村に、10人の人が住んでいました。彼らは「重い皮膚病」を患っていました。「重い皮膚病」とは、宗教的に「汚れている」とされた病気の名前です。この病気になると、その人は神さまから呪われたのだと思われました。そして交わりから締め出されます。身体的にも、そして精神的にも差別をされ、住んでいた村も追い出され、彼らが行きついた先は人の住まない国境の村だったというわけです。

彼らは、イエス様が近くを通られることを知ります。そしてイエス様を見ると、彼らは遠くの方から声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と叫ぶのです。彼らの願いは「憐れんでほしい」ということでした。

「病気をいやして欲しい」という直接的な願いではなく、「憐れんでほしい」。この言葉の中には、どんな思いが込められているのでしょうか。「イエス様、わたしを見捨てないでください」、「一人の人間として受け入れてください」、「わたしと一緒に泣いてください」。そう声を張り上げて叫ぶ彼らの姿を、わたしたちはどのような気持ちで見られるのでしょうか。わたしたちもそのように叫んだことはなかったでしょうか。

イエス様はその10人の姿を見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と告げられます。彼らはその言葉を聞いて、急いで祭司のところに向かったことでしょう。ここまでで、十分奇跡物語は完成し



ています。しかしここで話は終わりません。祭司のもとに向かう途中で、彼らは自分たちがいやされたことに気づきます。

9人はイエス様が言われた通りにします。聖書で定められたとおりに、祭司に体を見せます。さらに一定の期間を経て、祭司に「あなたは治った」と宣告してもらい、特別のささげ物をし、共同体に戻っていく。彼らは決められたことを、自分の力でおこなないました。掟を守り、律法の手順に従い、そして共同体に戻っていく。彼らはいっしょか、自分の力で病気を治したように思ったのかもしれませんが。それに対しサマリア人は、大声で神さまを賛美しながら戻って来て、イエス様の足もとにひれ伏して感謝しました。彼はイエス様にいやされたことを、心から感謝しました。イエス様の後ろに、神さまの大いなる恵みを感じたのです。だからその恵みに、賛美をささげずにはいられませんでした。これが彼の信仰です。

わたしたちもまた、神さまからたくさんの恵みをいただいています。そのときに、イエス様の元に心を向けているのでしょうか。こんなに小さな自分にさえ、目を掛け、愛してくださる神さまに、「ありがとう」と祈っているのでしょうか。

「立ち上がって行きなさい」、その言葉を聞きに、イエス様の元に向かいましょう。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>